

一般質問

6月9・10・11日の本会議では、延べ17人の議員が質疑・一般質問を行い、議案や市政全般にわたり活発な質問が行われました。(発言順に掲載)

メタボリックシンドローム 健診について

高橋佐代子 議員

Q 4月から新しい健診と保健指導がスタートし、おなか

の周りに脂肪のつく内臓脂肪型肥満に加え、糖質異常、高血圧症、高血糖の危険因子を複数あわせ持つメタボリックシンドロームの状態、または予備軍が多くなる中、40歳から70歳までですべての方が対象になるとのことだが、どのように健診計画をしているのか。また、受診の啓発をどのように計画しているのか。

A 高齢化の急速な進展に伴い、疾病全体に占める生活習慣病関連疾患の割合は、医療費の約3分の1となっており、生活習慣病発症の前段階であるメタボリックシンドロームが強く疑われるものと、その予備軍の割合が増加している状況から、生涯にわたる生活の質の維持・向上のためには、生活習慣病の予防に重点を置いた取り組みが重要で、喫緊の課題とされています。特定健診の実施計画は、国民健康保険の被保険者が受診しやすいよう、集団健診、まちぐ

るみ健診に加え、身近な医療機関での個別健診を実施します。また、日曜日にまちぐるみ健診を実施する等、利便性にも配慮します。

受診率確保の啓発については、市広報への掲載及びチラシ等の配布により、新しい制度の啓発に取り組んでいます。また、5月下旬に国民健康保険の被保険者で40歳から75歳までの方及び75歳以上の後期高齢者医療制度の被保険者に健診受診券を送付し、多数の問い合わせが寄せられ、受診申し込みにつながっています。制度創設間もないこともあり、不十分な点が多々あると思えますが、市民からのご意見をいただきながら、必要に応じて見直していきたいと考えています。

指定ごみ袋制実施について

別府 直 議員

Q 指定ごみ袋制導入に当たり、市民に説明会を行い、広報

でも周知を図られた。その中でもごみ袋の金額設定に当たり、処理費用の1割を市民に求められた。その費用が市民の努力で軽減されれば、ごみ袋の金額を下

げるのが筋ではないか。

いまはゼロウエストという、ごみを燃やさない、埋めない、つくらないという方向に転換されていると思う。取り締まりや近隣者で監視し合うのではなく、加西市としてどういうスタンスでごみを資源化するなり、市民の考え方を考えていくのかといった部分を考えていただきたい。



A ごみの量が減少すれば、処理経費が軽減され、市民の負担額も軽減されるのが本来ですが、クリーンセンターの構築後13年余りが経過し、老朽化が大変進み、修繕費に多額の費用がかかっている状態です。また、ごみ袋代がすべてクリーンセンターの管理費用に充当されていませんので、直ちにごみ袋代を

教育施設整備問題について

後藤千明 議員

Q 市内の教育施設の耐震調査の結果が県内でワースト2ということだが、教育施設の耐震整備を優先的にするのか、学校を統廃合して2重投資を避けようとするのかという難題に直面している状態と思うが、全体整備計画はどのようなものか。

幼・保・小・中の一貫校の構想は、宇仁小学校の改築とどの